

食道閉鎖症の診断・治療・予後についての後方視的観察研究

1. 研究の対象

1994年1月～2019年12月に当院で食道閉鎖症の診療を受けられた方

2. 研究目的・方法

食道閉鎖症は胎生期の食道および気管の発生異常で、ほとんどの場合に出生後すぐに手術介入が必要となります。根治術後も、呼吸器症状や消化器症状により、栄養状態や成長に大きく影響すると言われていています。本研究では、1994年1月～2019年12月に当院で診療した食道閉鎖症症例について、どのように診断・治療が行われ、どのような経過をたどっているか、診療録をもとに後方視的に解析します。今後の課題や改善点を探ることで食道閉鎖症の診断・治療の発展に寄与したいと考えます。研究実施期間は、臨床研究倫理委員会承認後～西暦2021年3月31日とします。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、生年月日、性別、在胎週数、出生体重、基礎疾患、併存症、
画像検査（単純レントゲン、CT、胎児エコー、胎児MRI、消化管造影）、
手術所見、合併症、長期的な成長・発達状況、栄養摂取方法 等

3. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：地方独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター

小児外科 米田 光宏

〒534-0021

大阪市都島区都島本通2-13-22

電話 06-6929-1221（代表）